

地域農業の在り方等を踏まえた市町村支援計画等の概要

- 【地区の概要】
- 果樹(梨)、畜産(酪農・肉用牛・養鶏)を主体とした平地農業地域。
 - 酪農家を中心に担い手による農地集積が進んでいる。また集約化を図るため条件整備をする必要がある地区。
- 【支援内容・背景】
- 高齢化により、農地の出し手が増えており、受け手となる担い手の確保や育成、経営強化による支援が必要。
 - 助成対象者は、飼養頭数が大幅に増加することから、自給飼料確保のため経営面積の拡大が必要であり、高性能機械や必要な施設を整備することで、経営の強化を支援する必要がある。



助成対象者「株式会社〇」の経営の状況と事業内容

【経営の経緯】

- 平成12年経営改善計画の認定
- 平成27年 経営移譲
- 平成30年 さらに規模拡大を目指し法人化
- 令和4～5年 畜産クラスター事業により搾乳牛舎、堆肥処理施設、飼料庫、搾乳機器、飼料混合機、給餌車、浄化施設整備を、経産牛を50頭導入

【事業実施時の状況】
〈R2年度〉

〇売上高 107百万円

〇飼養頭数(経産牛) 69頭

〇経営面積 15ha
(作付面積(飼料作物)12ha)

《事業による整備内容》

〇トラクター(201馬力) 1台
事業費 15,800千円
(国費 7,181千円)

〇バンカーサイロ(400㎡×H1.5m) 1基
事業費 9,018千円
(国費 4,099千円)

〇給水施設(井戸・ポンプ) 1箇所
事業費 4,400千円
(国費 2,000千円)



【現在の経営状況】
〈R5年度〉

〇売上高 153百万円 (142%)

〇飼養頭数(経産牛) 240頭 (347%)

〇経営面積 25ha (166%)
(作付面積(飼料作物) 21ha (175%))

事業の
効果

《対象者》 売上高、飼養頭数、作付面積等順調に拡大が図られており、今後も更に拡大する見込み。

《地区》 担い手への農地集積が進み遊休農地が飼料作物の栽培に活用されたことで、荒廃農地の防止に繋がった。